
『夢見る年月』

鉄下 学

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『夢見る年月』

【Nコード】

N0145D

【作者名】

鉄下 学

【あらすじ】

49歳の主婦が中学生の時から抱いていた仄かな夢を、今日これから実現しようとする。時を乗り越えたふとした拘りと、それをそっと受け止めようとする夫の優しさを感じ頂ければ・・・。

私は、49歳のおばちゃん。

そう、どこにでもいるような普通のおばちゃん。

そんなおばちゃんにも、ちゃんと旦那様はある。

ここだけの話、家では「旦那様」なんて可笑しくて言えてません。けれど、こうして他人様にお話するときには、「旦那様」。

気恥ずかしいんだけど、この「旦那様」っていう響きが好きなのね。

当人に向っては、何か、余程のきっかけがないと言えないと思うんだけど、手紙や日記には必ず「旦那様」って書くの。

これって、きつと、中学生ぐらいの時からなんだと思うの。

もちろん、まだ今の「旦那様」とは出会ってないわよ。

ほら、少女時代って、「恋」に「恋する」って言うでしょう？きつと、あれなのね。

友達なんかは、「ボーイフレンド」だとか「彼氏」だとか言ってたけれど、私は「未来の旦那様は……」ってな言い方をしてたの。

笑われたわよ。

今時なによ。古臭いってね。

でも、そう言われると余計に「旦那様」って言葉に惹かれちゃうのね。

だって、私だけが使う私のための言葉って気がしたの。

それだけ懂れていた「旦那様」って言う呼び方なんだけど、結婚後は「よっちゃん」。

そうなの、気がついたら、友達として5年も傍にいてくれたの。

「そろそろ結婚ねえ」なんて、親にも言われるし、会社でも「結婚はまだなの？」なんて言われるし。

で、あるとき、その「よっちゃん」に言ったのね。

「私の旦那様になる勇氣ある？」って。

そしたら「よっちゃん」がね、

「旦那」にだったらなれると思うけど、「旦那様」じゃあなあ。って言うのよ。

「よっちゃん」の方が2歳年下だったからね。

それで、まあ、何とか、人並みに「売れ残り」寸前に結婚したんだけど、

結局は、結婚前の「よっちゃん」が暫く続いたの。

そして、子供が出来て、それで「よっちゃん」も恥ずかしいって言うから、

「お父さん」になったの。

「パパ」という選択肢もあったんだけど、これは2人ともパス。で、「お父さん」で決まり。

それから23年。ずっと、「お父さん」。

ホント、あっという間よね。

その娘も、昨年結婚。

来春には子供も出来る予定なの。

でね、私、今朝、「お父さん」に言ったの。

孫も生まれるんだし、「お父さん」って呼び名も変えない？って。

そしたらね、「お父さん」、「おいおい、お爺ちゃんだけはやめてくれよ」って。

私もそんなつもりはなかったわ。

第一、彼、まだ47歳だもの、「お爺ちゃん」はさすがに気の毒。

でね、私、遂に言ったの。

じゃあ、「旦那様」でいい？って。

「お父さん」、びっくりしてたけど、新聞を読む振りをしながら、「様」を付けてくれて有難う、って。

もうすぐ、その「旦那様」が会社に出かける時間なの。

恥ずかしいんだけど、三つ指ついて、「旦那様、行ってらっしゃいませ」って言うてみたいの。

(完)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0145d/>

『夢見る年月』

2010年10月10日07時06分発行